

(別紙)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

①設置の趣旨・目的等の達成状況に関する総括評価・所見

本学の設置の趣旨として以下に示す項目について確実な達成を目指す。

・キリスト教の愛に基づくヒューマンケアリングの実践

高度の看護知識と実践技術を身につけると共に、ヒューマンケアリングの精神を中核とする看護職者の育成を目指す。ヒューマンケアリングとは、患者が健康を快復し、また人々が自己成長できるようケアするだけでなく、相手をケアすることによって自らも自己成長できるという、相互承認と互惠性の概念である。

・地域貢献の必要性

本看護大学は、地域社会と連携して、地域で生活する人々の健康支援について、広く地域関係者と共働する。生活者の視点から見る健康問題は極めて多岐にわたり、その解決については生活者自身が、単に身体的のみならず、精神的、社会的、環境的な面にも注目し、全人的健康を得るために自分をコントロールすることも必要である。このため、地元市町村の既存の地区組織、マンパワーの提携・活用、及び本学の母体である福岡女学院がもつ豊富な教育経験を援用して、地域での保健活動、健康管理に貢献し得る看護職者を養成する。

・生涯学習の拠点としての必要性

医療の進歩に伴い、看護職は最先端の知見と技術習得の自己研鑽が求められ、医師と同様の卒後教育が必要な職種である。近未来的には本看護大学教官が実習施設の福岡東医療センター病棟の看護師に病棟ゼミ等を介して、また古賀市・新宮町の保健師との地域医療活動を介して卒後学習に参画する。将来的には大学院において、研究や教育に携わる保健師・看護師の養成が行われ、看護管理者としての研修の場となる環境が整備される必要がある。本看護大学は可能な限りそのような生涯学習の拠点としての役割を担うことを目指している。

・どのような人材を養成するのか

本看護大学は、以下に掲げる看護職者の養成を目指す。

- ① 建学の理念であるキリスト教の愛の精神に基づき、ヒューマンケアリングを実践できる看護職者
- ② 自然科学と人文科学の両面にわたり幅広い教養に支えられ、人間の尊厳、倫理観を備えた豊かな人間性を有する看護職者
- ③ 人間関係を良好に維持し得るコミュニケーション能力を十分に修得した看護職者
- ④ 看護学および医学の専門的知識、技術を修得し、健康問題に関する問題解決能力と看護実践能力を身につけた看護職者

- ⑤ 大学と理念を共有する病院と卒後教育を系統的に実践し、高度の専門性でチーム医療を遂行できる看護職者
- ⑥ 保健・医療・福祉の質の向上を目指し、地域のニーズに合った地域貢献のできる看護職者

上記の目的を達成、維持するため、自己点検・評価委員会を発足し確実に実行している。また、平成 23 年度は評価機関に加盟し評価を受けるべく学内の各種委員会等の報告書の作成を始め種々の準備を行っている。